

会 議 開 催 結 果

1 会 議 の 名 称	令和8年度砥部町男女共同参画推進審議会
2 開 催 日 時	令和8年8月20日（木）10:00～11:00
3 開 催 場 所	砥部町役場 2階 大会議室
4 審 議 等 事 項	(1) 第2次砥部町男女共同参画計画について (2) 意識調査（中間アンケート）の報告について (3) 令和7年度の各課の取り組みについて (4) 今年度の取り組みについて
5 出 席 者 名	【出席委員】 仲田和由、大西康英、白方敬一郎、大西三千枝、 武智咲紀、石丸世志 【事務局】 森本克也（企画財政課長）、菊池安修（同課課長補佐）、 坪内千尋（同課主任）
6 公 開 又 は 非 公 開 の 別	公開
7 非公開の理由	—
8 傍 聴 人 数	0人
9 所 管 課	企画財政課 企画政策係 電話 089-909-4670

発言者	発 言 内 容
事務局	・ 開会あいさつ ・ 自己紹介 ・ 会議の公開・非公開について 公開とする。 協議事項 (1) 第 2 次砥部町男女共同参画計画について (2) 意識調査（中間アンケート）の報告について ・ 事務局説明
委員	アンケートに「困難な課題を抱える女性への支援」に関する設問を設定したことは、施行されたばかりで認知度の低い法律や支援体制について、町民の意識を喚起する第一歩として極めて有意義である。今後、町の各種施策において、この支援の視点を反映していくことが求められる。
委員	ひとり親家庭、特にシングルマザーなどの社会的困窮者への風当たりの強さや支援の届きにくさを懸念している。多様な困難や障がいを抱える人々が、社会的障壁（壁）を感じることなく、互いに助け合える環境づくりが必要である。 協議事項 (3) 令和 7 年度の各課の取り組みについて (4) 今年度の取り組みについて ・ 事務局説明
委員	ワーク・ライフ・バランスを推進する「イクボス（ひめボス）」の概念は社会に浸透しつつあるが、砥部町の取り組みや情報発信は遅れている印象を受ける。町における現在の認識と具体的な推進状況を問う。
事務局	事業者への登録推進等は実施しているが、外部への PR や「ひめボス宣言」といった目に見える形での発信において、他自治体に後れを取っている現状は否めない。

委員	仕事と家庭の両立には管理職の意識改革が不可欠である。父親の育児休業取得や積極的な家事育児への参画が一般化する中、まずは町長や役場自らがリーダーシップを示して「イクボス」の働き方を実践し、それを町全体や民間企業へ波及させるべきである。
事務局	役場職員の育児休業取得状況は、令和7年度において女性6名、男性6名と男女同数に達しており、部分休業等の利用者も7名在籍している。働きやすい環境整備や多様な働き方の推進は、役場内において着実に進展している。
委員	共働き世帯の急増に伴い、男女双方が働きやすい環境づくりが求められている。住民アンケートでも具体的な就労・生活支援のニーズが高いため、計画に「男女双方が働きやすい」という文言を盛り込むべきである。
事務局	令和8年6月に、えひめ女性財団の協力のもと共働き世代向けに『育休復帰・作戦会議～わたしと家族の「はたらく」をデザインする～』講座を開催した。参加者10名のうち男性が3名加わり、男性側からも共働きへの高い関心が示された。受講者の満足度は非常に高く、今後もこうした意識啓発講座を連携して継続していく方針である。
委員	意思決定の場における女性の参画拡大を進める上で、各種審議会等において「女性の意見が実際にどう反映されたか」というプロセスや効果を可視化することが重要である。例えば、議事録において発言者が男性か女性かを区別して表記するなどの工夫により、女性の意見が町政に届いている実感を促すことができるのではないか。
事務局	審議会等での意見は施策に反映させることを前提に運営しているが、その具体的な反映割合を数値化して示すことは実務上困難である。しかし、女性委員比率が低い会議も存在するため、今後は女性の意見やその反映プロセスを議事録等で分かりやすく伝える工夫について検討を進めていきたい。
会長	そのほか、ご意見はないか。 無いようであれば、以上で議事を終了とする。
事務局	・ 事務連絡 ・ 閉会宣言